

発達障害の子どもと不登校 ～どの子ども自分らしく歩むために～

令和7年度
子育て・家庭教育セミナー2

発達について

発達の視点

言語・認知

- ・一語文、二語分
- ・人や物の理解
- ・数、時間、心理 など

自我・社会性

- ・要求、切り替え
- ・自他の認識、主張
- ・自制、協働 など

生理的機能

- ・身長、体重
- ・睡眠
- ・食事、排泄 など

全身運動

- ・立つ、座る
- ・歩く、走る、跳ぶ
- ・つかまる、投げる など

手指の操作

- ・つかむ、持つ
- ・並べる、引っ張る
- ・書く、切る など



「言葉や物事の理解」「自分と他人の捉え」
が気になる項目としてあがりやすい

4-6歳児(主な発達の項目より)

ことば・情報の理解

- ・ その日や過去の出来事を話し、言葉が自分を調整するために使われる
- ・ 時間的に(過去-現在-未来)、空間(左-真ん中-右)、価値(好き-普通、まあまあ-嫌い)などがわかる

自分を意識する・周囲に合わせる

- ・ 相手の気持ちを察することができるようになる(いたわり)
- ・ 「～だけど…する！」という自分を抑える気持ちが芽生える
- ・ 「できたーできない」ことから工夫をしたりする
- ・ 今の自分に注目して変化を感じるようになる
- ・ より集団を意識して遊ぶことができるようになる

時間を意識する
お互いのやりとり
変化への対応

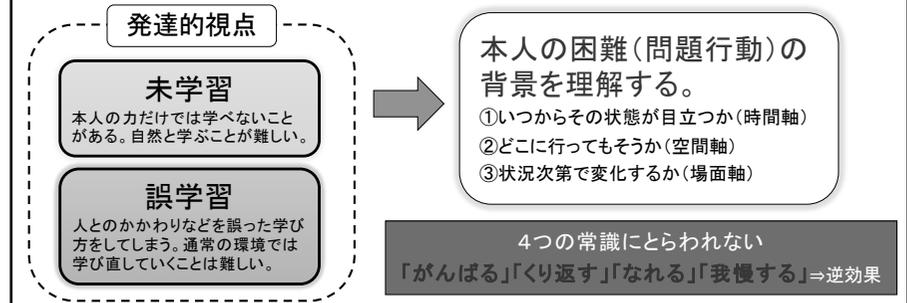


発達が気になる子は、発達の順番自体が異なる

一般的な発達の順番	一般	知的障害(例)	ASD(例)
目が合う	1ヶ月	1ヶ月	42ヶ月
人に笑いかける	2~3ヵ月	3~4ヵ月	60ヵ月
人に声を出す	6ヶ月	9ヶ月	6ヶ月
喃語	9ヶ月	15ヶ月	48ヶ月
言葉が出る	12ヶ月	24ヶ月	18ヶ月
語彙が増える	15ヶ月	30ヶ月	24ヶ月
簡単な命令に従う	18ヶ月	36ヶ月	72ヶ月
二語文	24ヶ月	48ヶ月	36ヶ月

発達の視点を持つ

- 発達のつまずき年齢や検査での平均とのずれではなく、
個々の発達状況を把握



発達障害

発達障害について

自閉スペクトラム症

【コミュニケーションの障害】

- ・会話や感情共有が難しい
- ・年齢に応じた対人関係が取れない など

【興味や行動への強いこだわり】

- ・常に同じ動きや会話を繰り返す
- ・同じ物事への強いこだわり
- ・限られた興味関心 など

注意欠如・多動症

- 不注意(持続困難、忘れる)
- 多動・多弁(じっとできない)
- 衝動性(我慢できない)

発達性学習症(学習障害)

- 学習能力の困難さ(読み・書き・計算)

※発達性協調運動症、コミュニケーション症群などを含む

脳の働きが違うため、ものごとを学ぶ方法が違う
 =できること・できないことの差が大きい

自閉スペクトラム症 (Autism Spectrum Disorder)



曖昧なことがわからない
 細かく考えすぎる
 自然に学ぶことができない

人の気持ちがわからない
 感覚が鋭すぎる・鈍すぎる
 些細な変化にも対応できない

脳の働きが違うため、ものごとを学ぶ方法が違う
 =できること・できないことの差が大きい

注意欠如・多動症 (Attention Deficit/Hyperactivity Disorder)



自分の気持ちや行動をコントロールできない
 優先順位をつける、見通しをつけることができない

良いことが行動のきっかけになりにくい
 目先の良いことに囚われてしまう
 良いことがない時は、他に気持ちが移ってしまう

知的障害

知的能力の働きや発達の遅れ
 =同年代の人と比べて、生活面や学習面で、何かができるようになるのが、ゆっくりとしていること

- 難しい言葉、時間や数、お金に関する意味理解、計算することや文字を書くこと、文章を読むこと自体が苦手
- 相手の考えを理解して、自分の考えや気持ちを伝えることが苦手
- 生活で必要なことを自立して行う、責任を果たすことが難しい
 - 軽度: 一定の社会生活を送ることができる
 - 重度: 発語がなく身の回りの全面的支援




発達の特徴を理解しよう!

できること
できないこと

脳の仕組み
神経回路など
→違い

脳の働き
中枢性統合
実行機能
心の理論 など
→偏り

行動
人への関わり方、不注意・多動
学習困難 など

→適切な環境

学習スタイル
情報に対する
理解の仕方・考え方

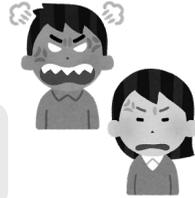
二次的な問題を減らす・防ぐ
自信喪失・無気力・不登校・情緒的問題・触法など

その他の特徴がある子どもたち①

愛着障害(虐待等によるPTSDを含む)

- 特定の人との関係ができていない、感じ方や感情が育っていない
 - 誰に対しても無警戒で身体接触を求めるタイプ
 - 人を警戒し人間関係を遮断してしまうタイプ
 - 発達障害(ASD)との愛着障害が併存するタイプ

愛情不足
ではありません！



- キーパーソンを中心とした支援体制をとる
- キーパーソンが常に導くような協働での関わりが大切

アタッチメント(愛着)の形成不全

アタッチメント=人との情緒的な信頼関係



安全安心の
象徴となる存在が必要

アタッチメントがあると...
感情が発達し主体性や好奇心につながる
→良い人間関係を築くための土台

- ASD : 感覚刺激の偏りや人への興味関心の低さ
- ADHD: 注意や叱責を受ける機会の多さ
アタッチメント形成が難しくなることがある



アタッチメント形成不全による影響

安全安心の元になるアタッチメント(愛着)がない



→認めてほしい、
かまってほしい気持ちから、

注意獲得
人を試す行動



→誰も守ってくれない不安から、

自己防衛や嘘
他責的な言動



→ネガティブな感情が付きまとうため、

自信喪失
人への非難と叱責

愛着に課題がある子どもへの対応のヒント

- キーパーソンを決めて、1対1の活動を取り入れる
 - 特定の人としっかりと関係を作るという体験をする
- 気持ちに名前をつけて言い当てる
 - 特定の人と一緒に何かをした時のポジティブな気持ちを学ぶ
- 行動を先取りして常に先手を打つ(誘う・提案する)
 - こちらが先に一緒に活動に誘って、安心感を感じてもらう
- 役割を与え、うまくこなせた時に認める
 - 他者の役に立っていることをポジティブに捉え広げていく



その他の特徴がある子どもたち②

メディアの長時間視聴による影響

- 言葉が育たない、コミュニケーションが取れない (愛着形成にも影響)
- 睡眠不足、行動異常、無気力無関心
- 視力や体力の低下、肥満傾向



→睡眠時間の確保、大人と一緒に体をを使った遊び
→コミュニケーション手段として活用

メディアに長い間接触し続けると...

- 頭の働きが悪くなり、子どもにとって様々な良くないことが起きます。
- 幼少期からメディアに接触し続けると 前頭前野の機能低下を招き、「ノーブレーキ脳」となる可能性。
- メディアは一方通行で自己完結し、子どもの対人関係を作る力を阻害する
- その他、無気力無関心、睡眠不足、脳の発育不足 など
- ノーメディア時間、ルールの設定などが大切です。



二次的な問題

二次的な問題とは

①特性

- 社会性の特徴
- コミュニケーションの特徴
- 想像力の特徴
- 不器用さ
- 感覚の偏り

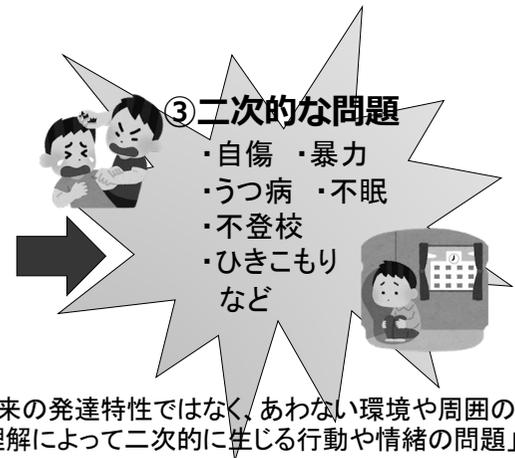


②環境

- 周囲の無理解
- 配慮不足



- 叱責
- 行動の強要
- など



「本来の発達特性ではなく、あわない環境や周囲の無理解によって二次的に生じる行動や情緒の問題」

二次的な問題の要因となること

不適切な関わり
→強制、過干渉

適切な支援の不足
→保護的、無関心

叱る・怒る
いじめ・虐待・体罰
過剰な期待・賞賛
能力と不一致の課題

褒めない・認めない
信頼や期待をしない
必要な課題を与えない
役割を与えない

二次的な問題の中身

自分の特性に合わない生活を強いられる

自分の内側にエネルギーが向けられる

ありのままの自分を認められない
自分を嫌いになる、どうでも良くなる
何ことも手につかない、やる気が出ない

自己否定、不登校、いじめ被害、
引きこもり、学習や生活意欲の低下

うつ病、不安障害、PTSD、
愛着障害等

心理的反応
二次障害
併存症

自分の外側にエネルギーが向けられる

指摘する大人に対して反抗する
友だちやクラスメートに文句を言う
できないことを求める人への怒り

暴言・暴力、反抗的な言動
ルール違反、器物破損、非行行動

反抗挑戦性障害、
行為障害、薬物依存等

二次的な問題が成人期に与える影響

意欲が育ちにくい

↓

やれること、
楽しみが少ない

人への信頼を感じにくい

↓

1対1の
信頼関係が築けない

学ぶ機会を逃しやすい

↓

実体験からの
学びが少ない

特に、好きなことや楽しみが少ないと・・・

- 新しいことに取り組むきっかけが見出しにくい
- ストレス解消やパワーの回復の方法がわからない(続けていく力が育たない)
- 人との接点を持ちにくい

好きなことや他者との接点を活用することで、
体験の幅が広がり、将来の選択肢も増える

不登校について

不登校の状況



不登校＝病気や経済的な理由を除き、
年間30日以上欠席すること (文部科学省定義)

不登校状態：
約10万人

- 学校に行っていない期間が30日未満
- 教室外登校(保健室など)、部分登校(遅刻早退など)、授業不参加型(周囲と異なる取り組み)
- 授業参加型(心の中で、辛い・嫌だと感じる)

不登校傾向：
約33万人

平成30年度 日本財団 不登校傾向にある子どもの実態調査より ※いずれも推計値

不登校支援の考え方

不登校傾向の理由を知る

「学校に行きたくない」
✕問題の始まり



学校が辛い・嫌だ、悩みがある、
トラブルが多い、疲れる...

子どもの最終段階

←子ども

休養

相談

傾聴

大人→

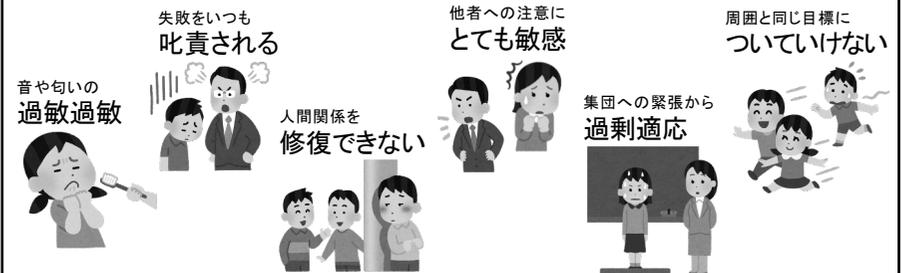
登校の無理強い、勉強の強要、ゲームとの取引は禁物！

→学校に行けないのはダメ人間という考えにつながりかねない

発達障害と不登校

ハイリスク 二次障害

発達特性のある子どもの場合、環境との折り合いがつかず、
不登校の引き金になることが多い



支援の手がかり



- 子どもの発達特性を理解する
→できること、できないことをつかむ



- 不登校の背景に目を向ける
→生活全体から要因となっていることを探す



- 環境と折り合いをつける
→特性に合ったやり方を見つける ※試行錯誤

★ポイント★
本当に
楽しいか？

子ども達のこれからの目をむける

不登校は
問題行動
ではない

「みんなと一緒に・同じ」よりも
「心の健康」

登校という結果だけを
目標にしない

人生は大人になってからの方が長い

→二次的な問題は、

特に思春期以降の生活に
大きな影響を与える傾向あり



子どもたちの未来の姿を想像して関わりましょう

関わりの基本的な考え方

支援の考え方 ⇒二次的な問題の予防・軽減

多数派
(ASDのない人たち)

できることをしっかり保障
できないことは無理をしない



通常の発達に近づけたい
苦手なところを伸ばしたい

少数派
(ASD・特有の
発達スタイル)

合意(=提案に同意すること)を教える

- 互いに命令/服従ではなく、合意で行動を決定する習慣
- できることを考える力、人に相談する力、ルールを守る力が身につく
- ×大人の価値観で子どもを管理するのは過干渉
 - 自分で選択、決定する力が育たず、自信も持てない
- ×「ご自由にどうぞ」は曖昧で無秩序でわかりにくい
 - 自主的な行動を促すつもりでも不安や混乱を招く

支援で目指したいこと



本人:

人と関わるのは良いことだと思えること

家族(支援者):

子どもに無理強いなど
極端な関わりをしないこと



急な変更でパニック

こんな時どうする: 急な変更でパニック(興奮する)

例えば...

周囲よりも自分のペースを優先しようとして
予定変更を目の当たりにして困惑
些細な違いにも敏感に反応して大騒ぎ



- 静かな場所へ移動、落ち着くまでの見守り
周囲の危ないものを片付ける
- × その場でなだめる・言って聞かせる
→感情のコントロールがきかない、表現がわからない場合あり
- × 大きな声で叱責する
→感覚過敏、意味理解困難、記憶のメカニズムが影響し逆効果

本人に合わせた目標設定

軽視されがちだが重要度が高い

起きている問題に囚われすぎると、本当に望むことが見えなくなる

目標達成!

チェック

周囲よりも難しい設定になっていないか？
→発達段階でも難しいことはもっと難しい



例)自分に目を向け得意不得意に気づくことができる

特性上、本人に無理がある設定になっていないか？
→難しい部分はサポートを受けることが基本



例)多くの子と触れ合い楽しく過ごせるようになる



スキル取得に偏っていないか？
→生活の質を重視する
(支障を減らす)

例)はしやスプーンを正しく使えるようになる

家族の意向に偏っていないか？
→予後を見越して本人中心に

例)クラスで認められるような存在になる

参考にしてみましょう: 失敗ばかりで自信喪失

ポイント

その子に合った目標にする
=子どもの特徴に合わせた難易度にする

- 段階を分けて簡単なものから
- 発達の特性に配慮されたもの
- そのことが何につながるのかを明記
- 自分の都合を優先した内容 など



「学校に行きたくない」

こんな時どうする: 学校に行きたくない

例えば、

ある日突然「行きたくない」と言い出す
以前から訴えがあり、ついに行けなくなる
体調不良を理由に行かないことが多い



- 無理に登校を促さず、子どもの想いを受け止める
- × 学校の行くことの意味や必要性を丁寧に説明する
→「行かない人はダメ人間」というメッセージが伝わり、子どもをさらに追い詰めてしまう可能性がある
- × 「行ったら楽しいよ！まずは行ってから考えよう」と言う
→休養が必要な場合、限界を超えてしまう可能性がある

傾聴を活用する(本音を受け止める)

「まず聴く」=信頼関係をつくる

①自分以外の世界(相手の物語)を共有する

→自分には関係のない話だと思わずに、
しっかりと耳を傾ける



②言葉だけに反応せず感情をつかむ

→相手の、本当は…、実は…をつかむ



参考に見てみましょう: 学校に行きたくない

ポイント

想いを受け止める

=相手の話の耳を傾け、本音をつかむ

- 話の裏側にある本当の気持ちに目をむける
- 目の前で起きていることにとらわれない
- ホンネとタテマエを意識する
- アドバイスやこちらの話は極力しない など



(参考資料)

自己理解の例: 自分の何を理解するのか??



からだの特徴や
イメージ
(身体・外見)

乳幼児期～学齢児前期



よくやっていること、
自分の能力、好きなこと
(行動)

学齢児中期～後期



性格的なこと、ストレス、
現実的な考え など
(人格・内面)

青年期～

行動面の自己理解で大切なこと

- いつもと違う場に身を置いてみて、人と一緒に気づきを得る
- 好きなことからの気づきは、+のイメージに繋がりがやすい
- 他者との双方向のやり取り
→(人との関係で自分を理解する+、自分だけで自分を知る↓)



キーワード: 多くの体験(活動)

キーワード「自己肯定感」

ありのままの自分を受け止め、「自分は自分で良い」と思えること
→自信=生活をする上での全ての基礎になるもの
→自分を受け止められることで相手も受け入れられる

関わる大人の意識



明確で具体的に
(子どもにわかりやすく)

モデルの意識
(大人になるって良い!)

将来を見越す
(力をつけるために)

一緒に取り組んで認めよう!

- 子どもの名前を呼んで挨拶、毎回笑顔で接する(存在承認)
子どもに関心を向けている=大切にしていること
- 喜ぶ(表情、大きいうなずき、拍手、ガッツポーズなど)
徹底的なポジティブフィードバック=安全安心の土台作り
- いつもハツラツとして、生き生きした姿、なりたい姿を見せる
- 子どもが気づいてない視点で提案する
- 個別の関わりの場面を大切に



参考文献

- 本田秀夫(著) 2025 発達障害・「グレーゾーン」の子の不登校大全 (株)ノタン社
- 本田秀夫(著) 2017 自閉スペクトラム症の理解と支援 聖和書店
- 米澤好史(著) 2022 愛着障害は何歳からでも必ず修復できる 合同出版(株)
- 前田智行(著) 2023 子どもの発達障害と二次障害の予防のコツがわかる本 ソシム(株)
- 藤岡徹 2017 自閉スペクトラム症の認知機能—ASD特性を説明する理論に沿って— LD研究
- 國分康孝(著) 1979 カウンセリングの技法 誠信書房
- John J. Ratey, MD with Eric Hagerman (著) SPARK The Revolutionary New Science of Exercise and the Brain NHK出版
- Anders Hansen (著) SKARMHJARNAN 新潮新書
- 広島県 2022 支援者のための発達障害支援ガイドブック
- 木村順(著) 2006 育てにくい子にはわけがある: 感覚統合が教えてくれたもの 大月書店
- 港区保育を学ぶ会(編) 2018 0~6歳子どもの発達と保育の本 学研
- 湯汲英史(著) 2015 0~6歳子どもの社会性の発達と保育の本 学研
- 滝吉美知香・田中真里 2009 思春期・青年期における自己理解—自己理解モデルを用いて— 東北大学大学院教育学研究科研究年報
- THE UNIVERSITY OF NORTH CAROLINA TEACCH Autism Program エビデンスに基づく療育技法
- 佐々木正美・Gary B. Mesibov(監修) 2009 親と教師のための自閉症の人が見ている世界 朝日新聞厚生文化事業団
- 大谷佳子(著) 2020 対人援助の現場で使える承認する・勇気づける技術 便利帖 (株)翔泳社
- 国立青少年教育振興機構青少年教育研究センター(編) 2020 発達段階に応じた望ましい体験の在り方に関する調査研究